市民と育てる「多摩市立中央図書館」サポートプロジェクト 2025
―市民と図書館と学生が共に考える新たな図書館利用と協働―

深水　浩司　常勤特任教授
（教職総合支援センター（多摩校））

2023 年 7 月 1 日に開館した「多摩市立中央図書館」では、これまでに本学の地域連携プロジェクトをはじめ、大学や学生・教員との相互協力による様々な共同イベント等を開催してきた。2023 年度 4 月には、多摩市立図書館から、開館準備の手伝いや、開館後のイベント、図書館の使い方のヒントなどを頂けないかと要請（本プロジェクト申請代表者と図書館サークル Olive に対して）があり、地域連携プロジェクトのイベントとして可能な限りのサポートを実施した。開館準備の手伝いでは、大妻多摩中学高等学校の司書教諭や生徒たちの協力もあった。

今年度のプロジェクトは、開館 2 年を迎えた図書館での市民主導で企画から運営まで実施する市民協働イベントや、恒例になっている図書館カフェ（高齢者対象）、ビブリオバトル等を通じて、市民の方々と図書館を、大学や教員、学生の力で結びつけるベント等を企画し実施した。以下に各イベントの報告を述べる。

最初のイベントは図書館カフェである。多摩市立図書館での告知正式タイトルは、「60 代からの本と語らうひととき～図書館で広がる、大学生との語らい～」（多摩市立図書館 Web ページより https://www.library.tama.tokyo.jp/images/upload/60pos2025813114039.pdf 2026 年 4 月 10 日現在）。事前に高齢者に接するための知識を、多摩市内で高齢者医療を担当している医師が講師となり実施した（9/13）。昨年は、同一図書館で 2 日間参加することが必要だったが、今年は別々の図書館で、1 回のみの参加も可能とした。1 日目（9/20）は関戸図書館、2 日目（11/22）は聖ヶ丘図書館で実施した（両日とも 10 時から 12 時）。参加者と本学の学生とがテーマ別のグループに分かれ、テーマや本について語り合いながら、学生とともに「自分だけの 1 冊」を見つけだした。その後、本を選んだ理由を自らの背景なども含め発表し、質疑応答も含めテーマに関する感想や知見を語り合うイベントになった。学生延べ 15 名と参加者 10 名、研修担当医師 1 名、その他図書館スタッフ延べ 9 名の参加となり、開催後のアンケートでは、「学生と気軽に話せたのがよかった」や、「来年も実施してほしい」などの感想が寄せられた。



グループに分かれ学生と高齢者が本について語り合う

先の図書館カフェの合間を縫って、ビブリオバトル（11/9）が実施された（事前のリハーサルは 11/6）。本イベントで、図書館サークル Olive の学生 4 名が企画・運営を実施（当日 1 名体調不良で欠席）したが、今回は帝京大学の共読サポーターズのメンバー3 名にも運営に協力いただいた(図書館スタッフも 4 名協力)。午前(高校生まで)発表 4 名（観戦者 13 名)、午後（一般）発表者 6 名（観戦者 23 名）で実施された。ビブリオバトルとは、「発表者（バトラー）が選択し持参してきた本の魅力を制限時間内で発表し、全バトラーの中で参加者全員が一番読みたいと思った本（チャンプ本）を選ぶという、「人を通して本を知る、本を通して人を知る」コミュニケーションゲーム（多摩市立図書館 Web ページより https://www.library.tama.tokyo.jp/info?0&pid=3296 2026 年 4 月 10 日確認)」であり、本学図書館サークル Olive が毎年主催しているイベントでもある。事後アンケートでは、非常に満足 55%、満足が 30%であり、感想には「参加しやすいイベント」で、「来年の実施」を求める声も多かった。



図書館サークル Olive による開会時の説明

多摩市民（たま和綴じ製本を楽しむ会）による企画・運営で実施された市民協働製本イベント（市立図書館告知の正式タイトルは「多摩市立図書館製本体験～自分で書いて作った本を図書館に！！～」は、2/8 に実施された。申請代表者による製本指導のもと、学生 4 名によるサポートと市民 6 名も加わり、参加者（和装本作成者）6 名による製本体験が実施された。このイベントは、多摩市立図書館が市民に呼び掛け、市民が主体的に企画を作り運営をする複数のイベントの一つであり、昨年度からから実施されている。本の大切さを、自ら製本（今回は和装本）を通じて学びつつ、自分の原稿をもとに作成された本は、多摩市立図書館の所蔵となり貸出もできるようにした。主催者である持田哲也氏と共に学生と教員も含めて企画を進め、市民と申請代表者と学生で運営を担当した。イベントでは、多摩テレビの取材を開始から終了に至るまで受け、2 月 15 日（日）～18 日（水）の間同局で放送された。事後アンケートでは、非常に満足が 85%、満足が 15%で、和本の歴史や実際の和装本が作成できたことに満足しているようだった。


和紙による製本（多摩テレビ取材中）

大学のリソースを活用した 3 つのイベントへの協力と実施は、大学と市立図書館、市民の方々との連携により、利用者がより図書館を身近に感じる入り口となり、新しい図書館スタイルを理解し利用するきっかけになっているはずである。これらを学生や協働した市民の方々と共に感じることができたのは、うれしい限りである。